

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	末寄 雅美	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学大学院 1998 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研 究 課 題
<p>① 2年間の保育者養成における体験的な学びを通じた保育観・子ども観の育成—環境遊びを中心として</p> <p>② 保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方</p> <p>③ 現場保育者向けの生活体験プログラムの構築 (フィールドワーク)</p> <p>④ 遊び技術を向上する保育士の研修のあり方</p>

担 当 授 業 科 目
<p>教育実習指導 (通年)</p> <p>こども学基礎演習 (通年)</p> <p>保育原理 (前期)</p> <p>教育原理(前期)</p> <p>生活の中の環境学 (前期) (開講せず)</p> <p>保育・教育実践演習 (後期)</p> <p>保育メディア演習 (後期)</p> <p>保育内容「環境」(後期)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【保育原理】</p> <p>保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。遠隔授業となったため、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。</p>
<p>授業科目名【教育原理】</p> <p>保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。遠隔授業となったため、学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。</p>
<p>授業科目名【保育内容「環境」】</p> <p>対面授業を実施した授業前半では屋外での体験学習を取り入れ、学生の生活環境への関心を引き出せるようなアクティブ・ラーニングになるよう工夫した。遠隔授業となった中盤以降も、自宅で実技や演習ができるよう工夫を行い、授業への参加意識を高めるよう配慮した。</p> <p>また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー (到津の森公園、獣医師) を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂いた。</p>

<p><b>授業科目名【保育メディア演習】</b></p> <p>対面授業を実施した授業前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、今年度から「認定絵本土養成指定講座」を3コマ実施し、絵本や情報社会との関連について、より学生の理解が深まった。特に、大学図書館職員からの授業では、絵本検索を通じて絵本の関心を深める非常に良い機会となった。</p>
<p><b>授業科目名【教育実習指導】</b></p> <p>「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、遠隔授業での指導の難しさを感じつつも、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。例年入学一ヶ月後に行う「観察実習」は後期に実施、一年生の「教育実習Ⅰ」は一部学生が2月に延期、二年生の「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅲ」と続けて9-10月に時期をずらして実施した。</p> <p>実習事後指導では一人一人の学生に対しオンライン面談を行い、また丁寧な日誌指導を行った。オンラインで実習報告会を実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペーパーサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。</p>
<p><b>授業科目名【教職実践演習】</b></p> <p>現場での保育実践を見越したアクティブ・ラーニングの授業を行った。授業前半の対面授業を実施した期間に「模擬保育」を行った。クラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い、オンラインで意見交換を行った。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。</p>
<p><b>授業科目名【こども学基礎演習】</b></p> <p>科目の主担当者として全体計画を作成した。オンラインで、まだ直接顔を合わせたことのない学生たちと懇親を深め、可能なゼミ活動を模索し、実施していくことは非常に困難であったが、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。</p> <p>「認定絵本土」養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では対面授業を実施し、認定絵本土としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。</p>
<p><b>授業科目名【こども学特別演習】</b></p> <p>2年次のゼミ活動の科目であり、当初は体験学習や学外研修を中心に予定していた。遠隔授業になったため、予定していたゼミ活動はほとんど実施できなかった。唯一予定していた活動のうち、メディアにおける「炎上」を模擬体験できるゲームと、地域施設訪問（到津の森公園）のみ実施できた。遠隔授業では、一年生同様に、オンラインでできることは限られており、学生同士の懇親を深め、意見のやり取りがしやすいよう工夫と配慮をおこなった。科学への関心を深めるために自分の家庭でできる身近な科学遊びの紹介を行ったり、オンラインでできる運動遊びなどを実施した。</p>
<p><b>授業科目名【生活の中の環境学】</b></p> <p>受講者が少なく、20年度は開講せず。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会		2013年5月～ 現在に至る
日本保育者養成教育学会		2017年3月～ 現在に至る
日本社会教育学会		1996年4月～ 現在に至る
日本生活体験学習学会	理事（2004-2010年、2018年-）	1998年10月～ 現在に至る
九州教育学会	事務局幹事（1996-1998年）	1996年4月～ 現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. 実習時における学生の困難事例についての検討～乳幼児との対応を中心に～	共著	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（ポスター発表）	平成31年保育士養成セミナー報告の学会発表である。実習時の困難事例を「生活」「あそび」「課業（課業的活動）」の3つのカテゴリーに分けて集計を行った。その結果、遊び場面について困難を感じていることが分かった。遊びの種類では、構成遊びでのトラブルが最も多く、学生はその働きかけがうまくいかずに悩む場面が多くみられた。 脇信明・古林ゆり・金子幸・上原真幸・阿南寿美子・島田知和・ <u>末寄雅美</u> ・藤本朋美
2. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究(5)	共著	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（ポスター発表）	本研究では、保育者養成校に在籍する学生の運動指導観の変容について調査し、「援助的運動指導観」と「計画的運動指導観」を二つのサブスケールに分けて分析を行った。その結果、いずれも3回目の調査で得点が低くなっていることが分かった。先行研究（保育者対象）と比較しても低くなっており、経験による差が影響していることが示唆された。 篠木賢一・阿南寿美子・命婦恭子・笠修彰・ <u>末寄雅美</u>
3. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究(6)実習前後の遊び環境に対する理解の変容	共著	令和2年5月	日本保育学会第73回大会（ポスター発表）	本研究では、実習体験を経た後に、遊び環境への理解の深まっているかに加えて、保育観、子ども理解の深まりとの関連についての分析を行った。その結果、遊び環境への理解が実習を経ることで深まっていることが分かった。また、入学時の遊び環境理解高群と低群では、低群の学生の理解が顕著に高まっていることが明らかとなった。 <u>末寄雅美</u> ・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・笠修彰

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016年9月～現在に至る（2022年9月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006年4月～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018年8月～現在に至る
山口県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2020年10月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018年8月～現在に至る
NPO ドングリ研究部会	研究・実践担当	2020年9月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育科学科長 2020年4月～現在</li> <li>・人事委員会 副委員長 2020年4月～現在</li> <li>・教員免許状更新講習「保育の質の向上と保育の専門性：保育における遊び環境について」講師（20年度は感染症予防のため中止）</li> <li>・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 幼稚園運営委員 2018年4月～現在</li> </ul> <p>他、学生募集のための高校訪問の実施等</p>
---